

会 議 録

1 会議名

平成29年度 上越市総合教育会議

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 上越市が児童・生徒に身に付けさせたい学力について（冒頭部分のみ公開）

3 開催日時

平成29年12月22日（金）午前9時30分から11時00分まで

4 開催場所

上越市役所木田庁舎5階 第2委員会室

5 出席者（敬称略）

・構 成 員：上越市長 村山秀幸

上越市教育委員会 教育長 野澤 朗、教育長職務代理者 徳道 茂、
委員 村椿正子、委員 濱 祐子、委員 中野敏明

・市長部局：理事 高橋一之、総務管理部長 岩野俊彦、総務管理課長 金山幸宏、
総務管理課副課長 宮崎恵子

・事 務 局：教育次長 早川義裕、教育部長 柳澤祐人、教育総務課長 市川重隆、教
育総務課参事 親跡久樹、学校教育課長 澤田 靖、学校教育課指導主事
石黒和仁、教育総務課副課長 本間綾子、教育総務課企画係長 加藤義浩

6 発言の内容（要旨）

（1）開会

【教育部長】

本日はご多忙の中、ご出席いただきありがとうございます。ただ今から、平成29年度上越市総合教育会議を開催いたします。

私は、本日の進行を務めます教育部長の柳澤です。よろしくお願いいたします。

本日は、会議の構成員であります市長、教育長並びに全ての教育委員の皆様から出席いただいております。また、関係職員として、市長部局から理事、総務管理部長、総務管理課長、教育委員会から教育次長、教育総務課長、学校教育課長が出席しております。

それでは、早速でございますが、お手元に配布いたしました次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、村山市長からあいさつをお願いいたします。

(2) 市長あいさつ

【村山市長】

冬らしい景色になり、本当に年の瀬がそこまでやってきたなという気がいたします。

今日は総合教育会議ということで、私もこのように仲間に入れていただきながら意見交換をするという新しい制度に変わったということでもあります。教育を取り巻く環境というのは非常に目まぐるしく変化しているとともに、複雑化、多様化してきております。このことを行政、教育委員会の皆さんで対応していく必要があるだろうと思っております。新しい制度になったこの組織が機能的に、また、それぞれが役割分担を果たせるように取組をしっかりとやっていきたいと改めて思っているところでございます。

教育委員会の皆様には、日頃から市の行政について深いご理解をいただきながら、お力添えを賜り、改めて感謝申し上げます。ぜひ、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

平成27年4月に大きな制度改正がありました。そして、平成27年度に上越市教育大綱を策定しながら、市を挙げて子どもたちの育みを支援していこうと決意したところです。その中であっては、学力の向上である「知」であり、また健康な身体、健やかな身体である「体」であり、豊かな心を育成する「徳」、「知・徳・体」であります。しっかりと子どもを育む環境づくりをしていきたいという思いの中でこの3つを進めていくことではありますが、今日のテーマにおいては、やはり地域の子どもの現状はどうなっているのか、そしてその学力はどうなのか、また、そこに対する大人の心の健やかさ、身体の健やかさというものをどのように見ていったらよいのか、ということ議論しながら、しっかりとサポートしていく取組ができればと思っているところでございます。

地域、学校、家庭に横串を入れる取組は、教育委員会に本当に一生懸命に取り組んでいただきました。このことを身のあるものにして、これからは子どもが少ない状況、社会の中で子どもを育むことを中心に据えながら、私たちが変わらなければ子どもたちも変わらないので、子どもと育む思いをどうやって自分自身に変えていくかということも大事なかなと思っております。

これから出てくる課題としては、子どもの学力面も大事でございますが、貧困による格差、このことでどうやって考えるのかということも出てくるでしょう。地域において

は子どもたちが少なくなって、1年間に3人とか4人しか子どもが生まれない区が現れてきていますので、子どもたちの将来にどのような育みの環境を作っていけば良いのか、これも大きな課題だと思っております。子どもだけに目を向けても子どもだけが大きく変化することはありませんので、子どもに目を向ける私たちがどうやって変わっていくか、将来を見据えて取り組んでいくか、そのことを考えていければと思っております。

上越市の人口が今19万6千人ですが、8年後の2025年には18万2千人になると言われています。1万4千人減るといふこの状況が8年後にやってくるのです。23年後の2040年には15万6千人になると言われていますが、4万人減るといふことは、人口が約2割減る訳ですので、確実にやってくる時代に私たちは確実に備えて考えていく必要があります、これは子どもの育みと同時に私たちの生活がどのように変わっていくのかということも見据えながら取り組んでいく必要があるなと思っておりますので、それぞれが考えておられることを意見交換させていただきながら、子どもたちの環境づくりに努めたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。今日は大変ありがとうございました。

(3) 協議

【教育部長】

それでは、早速ですが協議に移らせていただきます。

ここからは、上越市総合教育会議運営要領第5条の規定に基づき、村山市長に進行をお願いいたします。よろしく願いいたします。

【市長】

それでは、協議に入らせていただきます。時間は限られておりますが、有意義な会となりますように、ご協力をお願いいたします。また忌憚のない意見が交換できればと思っております。

本日の協議題ですが、先ほどお話ししましたように、上越市が児童・生徒に身に付けさせたい学力についてであります。地域の子どもたちにどのような学力、どのようにして学力をつけてもらいたいのか、そのことへの思いを議論したいと思っております。

まず、協議題について事務局から説明を受け、次に意見交換を行う順で進めてまいりたいと思っております。本日の会議につきましては、上越市総合教育会議運営要領第7条の規定により、意見交換以降を非公開としたいと思っておりますので、よろしく願いいたしま

す。

それでは、始めに本日の協議テーマの選定について、野澤教育長が説明いたします。

【教育長】

今回のテーマ設定の趣旨について簡潔にお話しさせていただきます。市長からお話がありましたように、本年7月、当市の教育委員会は新教育委員会制度に完全に移行いたしました。本日はそれを受けて初めての総合教育会議でございます。

私ども教育委員会といたしまして、教育大綱に定めました3つの重点施策のうちの1つである、すこやかな育ちの推進の中心テーマである、学力というものを取り上げたいと考え、市長に提案させていただいたものであります。この学力につきましては様々な捉え方があり、はっきりとした定義を示しにくいところでもありますが、これからの時代を生きる子どもたちにとって、より良い学力、言い換えれば私たちが子どもたちに身に付けさせたい学力とは何かについて、市長と共通理解を図り、今後の施策を力強いものにしていきたいと思っております。

本日は、教育委員会がこれまで示してきました学力についての基本的な考え方や学校現場での取組を検証するなどして、私たちが今後進めていくべき教育施策の方向性を確認したいと思っております。なお、このテーマにつきましては先日、教育委員会内で討議を行いました。その場でも様々な意見が出ておりましたが、最終的には緩やかではありますが、意識のすり合わせが図れたのではないのかなと感じたところでございます。本日はよろしく願いいたします。

【市長】

それでは、上越市の学力向上の考え方について事務局から説明があります。お願いします。

【教育次長】

今回の総合教育会議では、まさに教育課題の1丁目1番地である、学力向上を取り上げて協議していただくことになりました。ちなみに、各自治体レベルで言いますと、県レベルでは約4割、市町村レベルで3分の1がこの学力問題を取り上げています。また、学力の国際比較や全国学力テストの結果について様々な分析や論評が行われていますが、新潟県においても、議会やマスコミでこの学力の二極化、あるいは地域間格差、中学校の学力低下問題などが盛んに取り上げられております。

県では、いわゆる学力の先進県である秋田県や福井県等の取組を学んだり、県独自でWeb配信集計システムを使って全県的な学力向上対策に取り組んできている経過が

ございます。こうした中で、上越市としても、児童・生徒の学力向上というのは、学校教育の最重要課題と受け止めており、第6次総合計画、教育大綱、総合教育プラン等において、施策の柱、重点課題として取り上げ、様々な取組を進めてきております。

冒頭のご挨拶にもあったのですが、一口に学力と言っても、例えば、全国学力テスト等の調査結果から読み取れるのは、あくまでも学力の特定の一部とされるように、学力には様々な側面がございます。このことはすでにご承知だと思うのですが、今回改めて学力の捉え方について最初に皆さんと共通理解をしてから、この協議題に入りたいなと思います。

資料1をご覧ください。学力について広く捉えれば「知・徳・体」全てに関わって、知力だけでなく、気力・体力等も含めて学力の一要素とする考え方もあります。一方で、学力を狭義に捉えれば、いわゆる身に付けた知識の量とする考え方がありますが、平成19年に改正された学校教育法では、学力の三要素としてそこに示されるようになりました。

この3つで学力の三要素と示されるようになったのですが、最近の学力論議も、例えば①のような身に付けた知識の量で捉える立場と、②③を含めて総合的に捉える立場では学力に関してもかなり議論が分かれるところでございます。

さらに、2つ目の表を見ていただきたいのですが、平成28年12月の中央教育審議会答申では、新たに知識・技能、思考力等に加えて学びに向かう力、人間性等の資質・能力を含めたものまで学力として捉えられるようになりました。これを資質・能力の3つの柱と示しており、このバランスを重視して相互に関係させながら誘起的に育成することが大切だと言われております。いわゆる学力の資質・能力論へと方向が変わってきているということになります。特に、③の学びに向かう力、人間性等というのは、あまり学力の概念の中には含まれていなかった部分です。お互いに協力して問題を解決したり、人間関係を形成したりするとか、お互いに協力してチームワークを積んでいくとか、このようなことは、今まではいわゆる学力の概念には無かったのですが、そのことに焦点を当てるようになってきました。子どもたちに求められる学力をより確かな学力として、知識や技能はもちろんのこと、これに加えて学ぶ意欲、自分で課題を見つけ、そして自ら学び主体的に判断、行動し、問題を解決する資質や能力を含めたものとする考え方は新しい学習指導要領の重要な柱であります。

3つ目の表をご覧ください。今回の基本的な考え方の中にも、子どもたちが未来社会を切り開くための資質・能力を一層確実に育成し、その際、子どもたちに求められる資

質・能力とは何かを社会と共有し連携する、社会に開かれた教育課程が大事となっております。このように、新しい学習指導要領の基本的な考え方の中に謳われています。この③のような学びに向かう力、人間性等の資質というのは、いわゆるテスト等で測られる認知能力に対して非認知能力と言われております。

4つ目の表に説明がございます。この非認知能力というのは、実は人間形成の根っこの部分でございまして、その部分がしっかりしていなければ、いくら学力を身につけても、なかなか人間としてバランスのとれた成長には結びつかないというところでございます。社会の中で色々な困難に遭ったり、出会ったことのない課題に直面したときに、自分なりにその最適解を選択できる、そのような力の原動力となる部分が非認知能力である③の力だと思っております。ただし、やはり情意的な側面ですので、学力テストのように点数化したり、デジタル化するのが一番難しい部分でございます。子どもたちの育ちの中から変容や成功を教師が見付けて評価していく、そういった評価方法にこれから工夫が求められていくと思っております。

次に、学力については、冒頭に市長がおっしゃったのですが、学力形成に関わる要因というのは様々にあります。私が考えていくつか挙げてみたのですが、元々子どもが持っている子どもの本来の資質や自己有用感、成功体験の中で育まれるものとか、学級数等も影響します。それから、教師の資質、指導力、人間性等も大きな部分であると思っております。そして最近、経済格差についても言われているのですが、家庭環境だとか、地域の教育力、こういったことも実は子どもの学力には大きな影響を及ぼす要因と考えておりますので、いろいろな切り口から対策を考えていかないと、一口に学力向上と言っても課題が様々にあると思っております。

上越市においても、このような状況を受けて、具体的に取り組んでいる上越市の学力向上について説明していきたいと思っております。まず、学校教育の目標があるのですが、簡単に言いますと郷土愛、「知・徳・体」のバランスと、そして、自立と共生の3つを学校教育の目標に掲げています。そして、上越市が考える学力向上のイメージ、基本姿勢ですが、児童・生徒が自ら自分の力で伸びるその土台を作ることが主眼に置いております。教師主導で詰め込みをする、あるいは無理やり引っぱり上げるのではなく、子ども自身が自分の力で学びに向かって将来に向けて自分を高めようとする基盤づくり、これが教育姿勢でございます。多少、時間や手間がかかってもやはり子ども自身が伸びようとする力を大切に土台づくりに励んでいるということが、上越市の学力向上の基本姿勢でございます。

重点的な取組、学力向上対策についていくつか掲げてあるのですが、学力向上対策の2番目に啓発資料の作成、リーフレット作りが掲げてあります。これには、学力向上に関して、上越市教育委員会から各学校に提案し、指導を行っている具体的なことが書かれております。

このような取組の中で全国学力・学習状況調査等の結果から見た現状ということでお断りしておきますと、上越市の子どもたちの現状が5つ目にある部分でございます。これは全国学力テストに限って言えることなのですが、いわゆるA問題、基礎的な問題については全国的なレベルにあるけれども、やはりB問題、活用の部分では全国平均や県平均を下回っているという実態でございます。特に、中学生の家庭学習時間が不足しているのが上越市の大きな特徴であります。今、様々な取組を各地域や学校でやっているのですが、特に小学校との連携をしながら取り組んでいるところも多いのですが、これが直近の大きな課題です。この中には通塾率の問題もあって、都市部は非常に通塾率が高いですが、やはり周辺部に行くと塾そのものが近くにないという環境があって、塾での勉強時間というのは確かに少ないという現状でございます。ただし、学力テストの中で子どもたちの関心意欲や学校生活の満足度に関する調査があるのですが、ここで上越市の子どもたちは非常に高いという結果が出ています。学校生活への満足度、授業の理解度、そして自己肯定感などに関しては全体的に高いという現状であります。

さて、大きな課題といたしまして、上越市には多くの学校があります。小・中学校合わせて70校以上あるのですが、地域性も様々、学校の規模も様々、学校教育としていかにこの教育の質を確保していくか、その中には教育格差の是正とか、学校の適正配置、あるいは特別支援学級等もありますので、そういった状況をどのように整理していくかということが大きな課題となっております。それから、上越教育大学が地元にありますので、力強い教育的な資源として、私たちも連携を強化し、活用していかなければならないと思っております。

ここまで学力の受け止め方や当市の考え方を説明させていただきましたが、最後に今日ご協議いただきたいこととして、上越市の子どもたちがこれから社会で自立して生きて行くために、必要な資質・能力を育み、将来の担い手を育成するために、本質としてこれから学力をどのように捉え、向上に取り組んで行けばよいか、そのような点でご示唆をいただければと思っております。よろしく願いいたします。

【市長】

続きまして、意見交換に入りたいと思います。あらかじめお話ししたとおり、ここ

からは非公開とさせていただきます。傍聴されている方、報道関係の皆さん、ご退席いただければと思います。よろしくお願いいたします。

(内容非公開)

(4) その他

(内容非公開)

(5) 開会

【市長】

他にないようであれば、本日の協議は終了といたします。

会議の運営にご協力いただきありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

【教育部長】

活発な議論をありがとうございました。

以上を持ちまして上越市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。